

## 第1回

# クラブミーティング開催



昨今の滑空スポーツの情勢に対する問題意識の共有と解決を目的として、SATA 日口氏の呼びかけにより、6月15日(日)のJSA総会の機に、有志のクラブの代表者により標記会合が開催され、さっそく活発な議論が交わされた。今回は諸般の事情により広く参加を呼びかける事が出来なかったが、『『全国』クラブミーティング』に向けてあまねく参画を頂きたいとのことで、下記案内文を頂いた。また、今回の参加者の立場で宮城県航空協会の齋藤氏よりご寄稿を頂いたので併せて掲載する。(編集部・久田記)

## 全国クラブミーティングに参加しませんか

SATA 日口裕二

全国のグライダークラブの皆さん、こんにちは。

SATA：(公社)滝川スカイスports振興協会の日口です。

さて、今回はクラブミーティング開催のご案内(参加依頼)です。

現在、JSAは個人会員制度、すなわち個々の会員の意見を総会等を通じて取り入れることができる制度となっておりますが、実際には各会員の多くはそれぞれのクラブに所属し、クラブの中で意見を述べるにとどまり、その意見が各クラブを通じてJSAにまで届き、さらに何かが変わって行く動きにつながることはなかなかありません。また、滑空界全体に共通の懸案事項の解決についても、JSA自体が会員の支援・協力を直接的に得られる形態になっていないことなどから、なかなか進まないのが実情ではないかと感じています。

まずはこの現状を打開するには、それぞれのクラブの代表者が一堂に会し、意見を持つクラブ同士が直接話し合いの場を持つことが必要ではないかと痛感しています。例えば、私が仲間とともに進めているインストラクターマニュアルプロジェクトですが、間もなく翻訳が完成し、各クラブの代表インストラクターに配布できる状況になりつつあります。ところが、次のステップであり、最も重要と考える各クラブの意見を集約する場

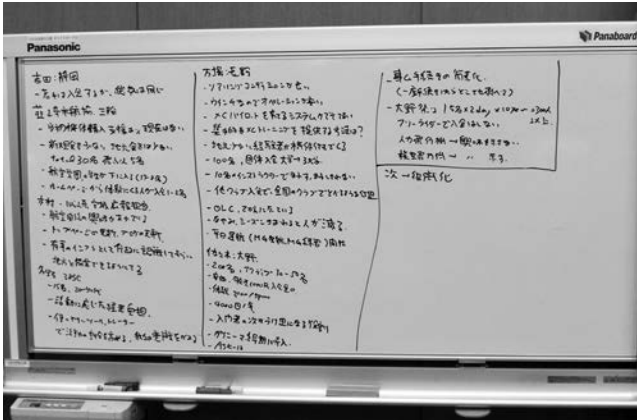
面・機会がネット上くらいにしか存在せず、必要な議論が十分にできない環境にあります。また、それぞれのクラブが抱える悩みや問題点、未来に向けての楽しみな取り組みなどを互いに披露し合い、互いの知恵を出し合って解決する場、さらには一緒に行動を興すための協議の機会がほとんどありません。

去る6月15日、JSA総会開催に合わせて、このような考えに同調いただいた有志のクラブの代表者が集まり、意見交換を行いました。今回は一つの試みということで、私の顔見知りの代表者かつ比較的集まりやすいと思われるクラブに声をかけさせていただきました…12のクラブから参加者17名、JSA理事のオブザーブ…ため、皆様はまだ情報が行き渡らなかったことについて先ずはお詫び申し上げます。

ご承知の通り、日本の滑空界はさまざまな問題点を抱えています。その問題点をみんなで共通のものとして捉え、今より少しでも前進するために我々がいま何をすべきかを話し合える場をつくらうというのが今回の集まりの趣旨でした。

話し合いは私の準備調整不足により十分な時間が設定できず、物足りなさを感じた出席者が多かったかと存じますが、それぞれの口から出てきた各クラブの悩み・問題点は互いに共通するものばかりで、年に1回でもこのようなクラブミーティングを開催し、自分たちの力でできるところから問題点を解決していくべきだというのが出席者全員の共通した意見でした。

これを踏まえ、全国のクラブ代表者が互いに意見を交換し合えるMLの開設と全国クラブミーティングの開催を計画したい



活発な議論が交わされた

## クラブミーティングに寄せて

宮城県航空協会 齋藤岳志

ある海外の滑空雑誌に載っていた記事が衝撃的でした。題名は「GLIDING is DEAD!」。出だしには、「もし、死んでいないならば、それは死につつある。」とありました。私は、日本も同様の状態であると認識しています。現在の日本滑空界が再生するためには、

- ①減少する滑空人口にどう歯止めを効かせるか。
- ②刻々と変化する航空行政に対し、滑空界がいかに関与を示し、飛行環境を保っていくか。
- ③かつて、その個性とバイタリティーで各々のクラブの飛行安全を保ってきたリーダーが去りつつある今、教育水準と安全確保の為、どのように世界標準と同様のスタンダライゼーションを図っていくか。

等を解決していかなければなりません。

AVGAS 確保の困難、空域の問題、若手パイロットの減少、日本選手権の復活等、即応しなければならない問題は山積しています。

グライダーが日本でこれからの時代を生き抜いていくためには、各クラブ個々の対応ではなく、滑空界全体の総意としての取り組みが必要です。今こそ、各クラブが横のつながりを強め、結束するタイミングだと思います。先日参加したクラブミーティングにおいては、時間的な制約もあり結論を出すことはできませんでしたが、皆が、「今、問題を解決するために何かをしなければいけない。」共通意識として持っている事を確認できた事が一つの成果だったと感じています。

「今、ここで我々は再生し、次の世代にこの素晴らしいスポーツを引き継いでいきましょう。」

と、歯の浮くような言葉も唱えたい気分です。協力していきましょう！

と考えております。

MLへの参加は、原則各クラブ2名まで。以下の手順でご参加ください。

- ①クラブの代表者を登録します。下記メールアドレスまでメールを送付してください。

ML担当：NPO法人 葦崎市航空協会 木村邦彦 kimura.kunihiko@nifty.com

- ②Club Meeting MLからお誘いのメールが届きましたら、登録は完了です。以降は活発な意見交換を行ってください。

※ MLへの参加者数を制限しているのは、できる限り個人的な意見でなくクラブとしての意見を出していただきたいからです。この点、ご意見ございましたら遠慮なくお申し出ください。

また、皆様にお集まりいただき議論するクラブミーティングに関しては、年に1~2回程度、地域性も考慮して開催する場所を決めていきたいと考えております。(記念すべき第一回目のミーティングは11月下旬に大野グライダークラブ主管で開催する方向で現在、鋭意準備を進めています。)

是非、ご参加いただき、一緒に楽しい滑空界をつくっていきましょう！

(ご質問、ご意見は日口までお気軽にお尋ねください)

日口裕二 JCF06757@nifty.ne.jp

TEL.090-8639-8271

所属：SATA 0125-24-3255 sata@rapid.ocn.ne.jp



夜の部も更に熱い議論が交わされた